

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## ヤスィックアケルの奮い空 22

## 脱出行 2

雨はますます激しくなる。しかし、だからこそゆっくりしていられない。・・・ヌルさんはそういう。クディを過ぎて一体どこまで行くつもりなのだろうか？考えてみればドライバーは走り詰め。まさかイエチョン（カルガリク）まで行くこともあるまいが・・・。

こうして真っ暗闇の中、我々の車は最後の峠であるアカズ峠へさしかかる。泥べっちやのぬかるみでは、タイヤのスリップしたトラックが登れなくなってしまった。それを見た我々のパジェロを運転する李ドライバーは、なんとトラックを牽引するという荒技に出た。ここまで来ると脱帽だ。しかし、その無理が祟ったのか、峠（3860m）の手前で、パジェロは今日2度目のパンク。ザンザン降りの中で、びしょ濡れになりながらのタイヤ交換。時は11:30。

こうまでして進んできたが、峠を下ったところで、前の方に車列があり、進まない。車を降りて様子を見に行ったらヌルさんが言った。「川が道を食っている。」1度目はなんとか通過したが、未明の2時過ぎに、再び川を渡るところで、万事休す。今日の脱出行もここまでとなった。予期せぬ車の中でのビバーク。ドライバーはガソリン節約のためエンジンを止めているので、先ほどのタイヤ交換で身体が濡れていて冷たい。前にはドライバーとヌルさん、後部座席に久根、三戸呂、大西の3人ということで足を伸ばすことも身体を伸ばすこともできないままの車中泊。ようやく長い一日が終わったのだった。

8月13日、寒さと窮屈さから寝たのか寝ないのかわからないような半夜。それはドライバーも同じはず。わずか2～3時間しか寝ていないはずだが、6:30には行動を開始。前方の通行不能の箇所は「川が道を食った」という通り、川にえぐり取られた道がギリギリ車1台通れるくらいの幅になっている。雨も小降りになったせいか、水も引き普通車なら何とか通れそうだという。しかし、幅の広いトラックは無理だ。それで、トラックは道が補修されるまで待機させることにし、我々だけが先へ進むこととなった。我々はこの先イエチョン（カルガリク）からホータンへ向かうが、トラックはカシュガルへ向かい、荷物はそこから日本へ発送することになっている。イエチョンで合流できないこともあると考え、日本向けのパッキングをし直して、トラックとは分かれることとなった。

トラックと分かれた後も、昨日の雨による洪水の爪痕が残っていて3カ所で、しばらく足止めを食った。とりわけ最後の箇所は橋が完全に流されており、長期戦を覚悟、今日のイエチョン入りは無理ではないかと思った。ところが、そこにやってきたのは一台のショベルカーである。野次馬が大勢見守る中、小一時間で濁流をせき止め、仮設の道路を造ってしまったのである。文章でもうまく説明できないが、とにかく目の前の水の逃げ道を造った後、山を崩して流されてしまった箇所を埋め立てて道を通してしまったのである。恐らくしゅっちゅう同じような工事をしているからだろう。慣れた職人による「マンパワー」のすごさを感じた。

こうして、帰りは多くのトラブルが次から次へと発生したが、13:30には西域南道と

の分岐点イエクション(カルギリク)に到着した。ドライバーが先を急いだわけもわかる。もし、もう一晩ベースキャンプでのんびりしていたらなら、帰ってくるのはいつのことになったかわからない。結果論ではあるが、一昨日の撤退、雨中の昼夜兼行の走り詰めがあったから、人里までたどりつくことができたのだ。それにしてもである。ドライバーたちは、9日にカシュガルを出てから11日に我々をピックアップ、その後もほんの仮眠程度の睡眠で、相次ぐトラブルを克服しダートを走り通したわけだから、そのタフさには感服する。・・・そして彼らはホテルで2時間ほど休んだ後、今日のうちにカシュガルへ帰ると、ホテルを後にした。

本当に久しぶりにホテルに泊まった。バスタブはなく、シャワーのみだというのが残念。しかし、湯が出るだけでもありがたかった。

## 長山協 50 周年関連の著作物紹介

**その1 長野県山岳協会創立 50 周年記念誌**・・・1961年に創立した長野県山岳連盟はその後組織改編で長野県山岳協会と名を改め、今年50周年を迎えた。その50年を概観した記念誌である。長山協顧問の田村宣紀さんがそのほとんどをまとめてくださったが、1980年代から90年代半ばの「長野県高校生訪中登山交流会」の記述や長野県高体連登山の記録(この2つの部分、勝野順さんと小生が編集)は、高校関係者必見(ちょっとおおげさかも)。でも、写真を多用し、見て読んで楽しんでもらえるものとなっていると自負しています。長山協の海外登山と山岳協会ニュースを網羅したCDつき 1冊2000円(送料別途500円)



**その2 失敗アクシデント事例集——何が起きたの?それはどうしたの?・・・50周年**を機に、これまで安全登山を追求してきた長山協なりの指導書を作りたいとの思いで、プロジェクトチームを作って編集しました。身近な失敗事例が95例集められています。こんなときどうする?こんなことあったっけ?これまでの指導書とは一味違う興味深い失敗事例が紹介されています。すべて協会員の経験談です。1冊300円(送料80円)



**その3 信州ふるさと120山**・・・これは50周年に協賛して高山蝶の写真家として著名な栗田貞多男さんらが、山岳協会の関係者に協力を求めて発行したもの。広域合併前の長野県にあった旧120市町村から、地元が選んだあこがれの1座がガイド、文、写真とともに紹介されている。編集委員には木曾青峰高校の花井嘉夫先生も名を連ね、木曾の山を紹介しておられることを紹介しておきます。こちらは信毎書籍刊の市販本ですが、長山協でも扱っています。ぜひ私にお声がけ下さい。本体1冊1800円(税別)



**その4 高校生に夢を——初登頂 ヤズィックアグルの蒼い空**・・・不肖我ら信高山岳会が長山協50周年記念の冠をいただいて行なった、ヤズィックアグル峰初登頂の報告書。なぜか、小生のかわらばんに連載している「ヤズィックアグルの蒼い空」と題名が一緒であるが、そこはご愛敬。カラーグラビア8ページ、本文88ページ。自画自賛であるが、それなりの報告書に仕上がっていると思っている。帰国直後、宮本長山協会長に、「50周年記念祝賀会までに完成させるのが使命、信高山岳会の登山は登山が終わった後も終わらない、登山から得たものを高校生に伝え、夢を持ってもらう仕事が重要」との至上命令を受け、なんとか間に合わせた。県内の全高校に1冊ずつ献呈し、図書館においてもらう予定です。興味のある方、1冊1000円(送料80円)でお分け致します。

